

リンドウの挿木増殖

第3報 母株の加温開始時期及び期間が開花期と生育に及ぼす影響

佐々木由紀子・中野 俊成*・阿部 隆*

(盛岡地域農業改良普及センター・*岩手県農業研究センター)

Cuttage of Gentian

3. Effect of heating time and period on flowering time and growth of mother stock

Yukiko SASAKI, Toshinari NAKANO* and Takashi ABE*

(Morioka Regional Agricultural Extension Service Center・*Iwate Agricultural Research Center)

1 はじめに

岩手県では、リンドウ栄養繁殖系品種として切り花2、鉢物2、計4品種を開発している。これまで、簡易的増殖法として挿木増殖を取り上げ、挿木方法、発根条件¹⁾及び越冬芽形成条件²⁾について検討を行い、いくつかの知見を得た。挿木増殖法を鉢物品種の栽培に応用することにより、年内で増殖・養成・出荷する体系が可能となる。本試験では、出荷時期拡大を目的として、採穂用母株の加温開始時期及び時期が開花期と生育に及ぼす影響について検討した。

2 試験方法

供試材料には、露地栽培の栄養繁殖系鉢物品種「あおこりん」(登録申請中)を加温開始時期に掘り上げ、供試した。

母株の開始時期と期間は、それぞれ1996年1月10日加温開始-3月10日挿木区(以下①区)、1月10日加温開始-4月10日挿木区(以下②区)、1月10日加温開始-5月22日挿木区(以下③区)、2月加温開始-4月10日挿木区(以下④区)、2月加温開始-5月22日挿木区(以下⑤)、無加温-5月22日挿木区(以下⑥区)とした(表1)。なお、1996年は春先の低温、日照不足のため、平年より春先の生育が遅れた。本品種ではその傾向が著しかったため、穂の生育を確保できず、対象区(⑥区)の挿木適期が10日程度遅れた。同様の理由で、③区の実際の加温期間は130日、⑤区の実際の加温期間は100日となったが、穂の生育ステージは平年の5月10日時点と同様と判断し、それぞれ③区は加温期間120日、⑤区は加温期間90日として設定した。

加温はガラス温室内において最低気温15℃、最高気温25℃

で行った。8節まで生育した穂を順次採穂後、プラントバットにバーミキュライトとパーライトの等量混合土を深さ5cmに敷き詰めて挿床とし、頂部~1節まで天挿した。切り口にはオキシベロン粉剤(0.5%)を粉衣し、基部1節を地中に埋めた。挿木間隔は3cm×5cmとし、挿木後30日後に鉢上げを行った。鉢上げ用土はリンドウ専用培土と鹿沼土を2対1の割合で混合したものを鉢上げ用土とし、2.5号ポットに1本植えて鉢上げを行った。鉢上げ後の管理はガラス温室内で最高気温25℃を目安に換気を行った。

開花期は開花株が50%に達した時点とし、調査は開花終了時とした。

3 試験結果及び考察

(1) 母株の加温開始時期及び期間と開花期

①(加温期間60日)区の開花期は7月3半旬となり、対照の⑥区より開花期は大幅に前進した。②(加温期間90日)区と④(加温期間60日)区を比較すると、それぞれの開花期は8月2半旬と8月4半旬となり、挿木時期が同時期でも加温期間の長い②の方が2半旬、開花期が前進した。同様に③区、⑤区及び⑥区では③>⑤>⑥の順で加温期間の長い方が開花期の前進が見られた。よって、母株の加温期間が長い程開花期が前進すると考えられた。さらに加温期間が60日である①区と④区を比較すると、加温開始時期が早いほど開花期前進がみられた。また、加温期間90日である②区と⑤区についても同様であった(表2)。

(2) 母株の加温開始時期及び期間と生育量

加温開始時期が1月10日の①区、②区と加温開始時期が2月10日の④区、⑤区を比較すると、花蕾数は前者が優った。また加温期間60日の①区、④区と加温期間90日の②区、

表1 試験区の構成(母株の加温開始時期と期間)

区名	加温開始時期 (月/日)	挿し木時期 (月/日)	加温期間 (日)
①	1/10	3/10	60
②	1/10	4/10	90
③	1/10	5/22	120
④	2/10	4/10	60
⑤	2/10	5/22	90
⑥	—	5/22	0

表2 加温開始時期及び期間ごとの開花期と生育量

区	開花期 (月・半旬)	到花日数 (半旬)	草丈 (cm)	節数 (節)	茎径 (mm)	分枝数 (本)	花蕾数 (個)
①	7・3	25	13.8	7.0	1.6	6.5	6.3
②	8・2	24	13.6	6.6	1.6	6.5	5.6
③	9・4	24	3.8	2.8	1.1	0.3	1.3
④	8・4	26	12.8	6.0	1.4	3.9	4.8
⑤	9・5	25	11.8	5.5	1.3	4.1	3.8
⑥	10・1	27	14.9	8.5	1.6	2.0	2.8

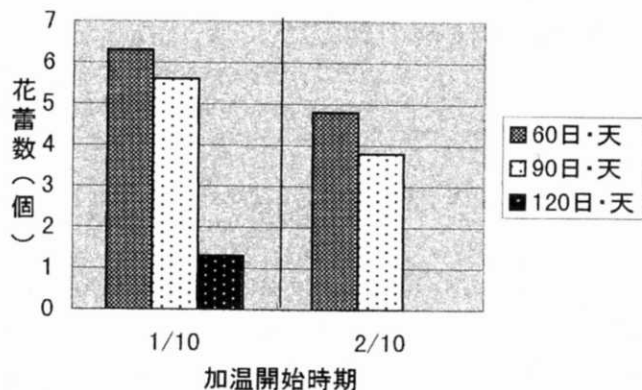


図1 母株の加温開始時期及び期間と花蕾数

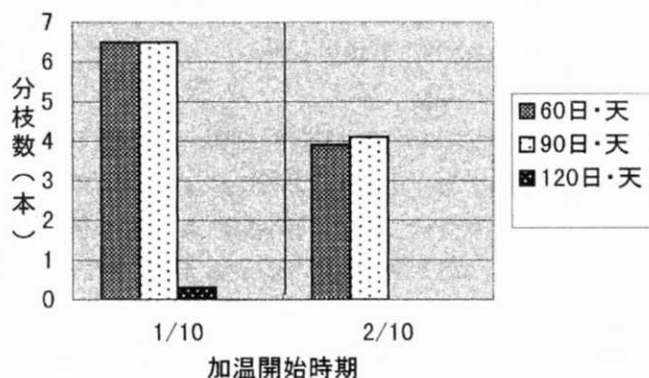


図2 母株の加温開始時期及び期間と分枝数

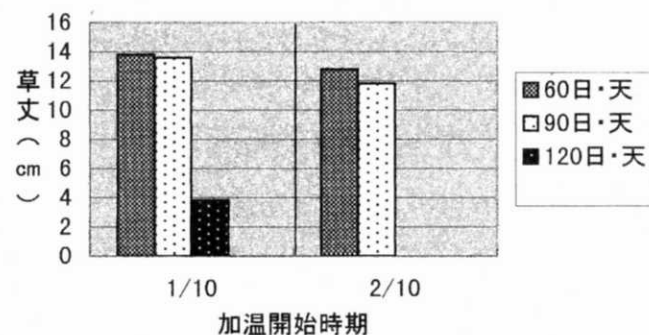


図3 加温開始時期及び期間と草丈

⑤区を比較する加温期間60日区で花蕾数が多かった。一方、加温期間120日区では花蕾数は大幅に減少した(表2, 図1)。

分枝数については加温開始時期1月10日の①区, ②区と加温開始時期2月10日の④区, ⑤区を比較すると加温開始時期1月10日区で分枝数が増加した。加温期間60日の①区, ④区と加温期間90日の②区, ⑤区を比較した場合は両者に大きな差は見られなかった。また, 加温期間120日区では, 著しく減少した(表3, 図2)。

草丈・節数は対照の⑥区で最も確保された。加温開始時期1月10日の①区, ②区は加温開始時期2月10日の④区, ⑤区より, やや多く草丈・節数が確保された。加温期間が60日の①区, ④区と加温期間90日の②区, ⑤区を比較すると同等か, 加温期間60日区の方がやや優る傾向にあった。また, 加温期間120日区では大幅に減少した(表2, 図3)。

これら一連の現象は, 120日程度の長期加温により, 母株あるいは穂の幼若性が喪失していくことによるものではないかと推察された。

4 ま と め

母株の加温開始時期が早いほど, あるいは挿木時期を一定とした場合には加温期間が長い程, 開花期は前進した。また, 加温開始時期の早い区では, 90日間までの加温期間で花蕾数, 分枝数の増加が見られた。よって, 鉢物としての品質を考慮した場合, 加温開始時期は1月10日, 加温期間は90日までが適当であると考えられた。開花期は加温期間60日と90日ではそれぞれ7月3半旬, 8月2半旬となり, 出荷時期の拡大が可能となった。

今後は開花調節や品質向上をねらいとし, 摘心を取り入れた栽培法の確立が必要である。

引 用 文 献

- 1) 佐々木由紀子, 中野俊成. 1995. リンドウの挿木増殖. 第1報 発根条件. 東北農業研究 48: 275-276.
- 2) 佐々木由紀子, 中野俊成. 1996. リンドウの挿木増殖. 第2報 越冬芽形成条件. 東北農業研究 49: 227-228.